

## 第4回「社会と情報に関するシンポジウム」1994

社会情報学部研究委員会 狩野 陽

札幌学院大学社会情報学部の創設を期として始めた本シンポジウムは、第4回を迎え、1994年7月29日、30日の両日、開催された。昨年の第3回シンポジウムは冷い風雨の降りしき中であったが、今年は打って変わり暑い日中の打ち続くさ中に、シンポジウムは進行した。

本年のシンポジウムは、初めての経済学の領域から情報社会の問題を包括的に提言いただき、京都大学経済研究所 佐和隆光教授と、認知と自然言語の領域に工学からの展開を推進されている、京都大学工学部 長尾 真教授の提言をいただき、このお二人の提言の含む問題を哲学の領域から検討いただき討論者として、千葉大学文学部 土屋 俊教授をお迎えし、四十名余の道内、道外の第一線の研究者の参加をえて、行なわれた。

第一日は、田中一社会情報学部長の挨拶の後、主報告に入った。佐和教授は「高度情報化社会の光と影」として、60年代の情報化から80年代、90年代にいたる社会経済の諸相を分析し、情報資本主義の解明に既成の経済学のパラダイムが殆ど役立たない所以を割り、わが国の情報化の未来にペシミスティックな予測と苦言を提示された。教授の多彩な問題の指摘に対して質疑が続き、短い昼食の時間を挟み、長尾 真教授の報告に入った。長尾教授は「言語情報処理技術の現状と将来」と題して、日本語と英語間の機械翻訳システムの具体的展開に即して、文法依存のシステムから自然言語パターンである例文依存、さらに文脈依存にいたる翻訳の質の改善の事実を指摘し、情報科学の発展の鍵となるべきものを示唆された。土屋教授は、両者の論点を結び、新たな着想で論議を発展された。

第二日は、提言の補足と質疑による新たな展開を中心に、インティメイトで活発な討論が続き、社会情報学部 斎藤龍亀教授が全体を纏め、シンポジウムを閉じた。

佐和教授、長尾教授、土屋教授をはじめ関係の方々に、深く謝意を表す。

### ■プログラム内容

#### 第1日目

開会式の挨拶 狩野 陽(札幌学院大学)

学部長挨拶 田中 一(札幌学院大学)

#### 講演1

講演者 佐和隆光(京都大学)

#### 講演2

講演者 長尾 真(京都大学)

#### 討義

問題提起者 土屋 俊(千葉大学)

#### 第2日目

総括討論

討論者

佐和隆光(京都大学)

長尾 真(京都大学)

土屋 俊(千葉大学)

サマリートーク

斎藤たつき(札幌学院大学)

司会

狩野 陽(札幌学院大学)

皆川雅章(札幌学院大学)

井上芳保(札幌学院大学)